

2012 年 5 月 9 日

(これは、ロンドンにて 2012 年 5 月 2 日付で配信したものを、日本の皆様に向けて抄訳したものです)

スタンダードチャータードは、5月2日付けで、2012年度第1四半期に関する中間経営ステートメント (IMS) を発表いたしました。

当行グループ最高経営責任者であるピーター・サンズは、次のように述べています。

「スタンダードチャータードは、多岐にわたる地域および商品で好業績を収め、2012年は力強いスタートを切ることができました。当行は厳格な事業戦略の実行を通じて、強固な事業基盤をもってダイナミックな市場で大変優位なポジションを維持しています。当行の業績は大変好調に推移しており、当行は成長企業として、流動性と資本力で差別化されています。世界的には明らかに不透明感とリスクが残るものの、マクロ経済面の見方は改善の兆しを示しています。」

当行グループは、前年同期比で一桁台後半の収益成長を達成し、今年度は力強いスタートを切ることができました。当行グループの第1四半期の業績は、両部門とも前年同期から収益が順調に伸び、前年度末にみられた好調な成長基調を維持しました。しかしながら、収益成長は、3月発表の年度決算に示されように、第1四半期のアジア通貨に対するドル高の継続による影響を受けました。

地域別にみると、香港・マレーシア・インドネシア・中国・米州・英国・欧州地域の二桁の収益成長は、地域ごとにばらつきがあるものの、インドの国内企業の景況感の低迷による影響を補って余りありました。韓国では、事業のリポジショニングに引き続き進捗がみられ、費用項目に早期退職プログラム (ERP) の恩恵が現れています。

当行グループ全体において費用の厳格な管理を維持した結果、第1四半期の収益の伸びはコストの伸びを上回りました。同四半期末の従業員数は、前年度末とほぼ同水準となりました。当行グループの2012年の力強いスタートを踏まえ、予算水準を上回る投資ペースの加速を認めました。

第1四半期のクレジットコストは、前年同期の水準を上回りましたが、予想通りであり、クレジットクオリティ(信用の質)は良好を保ちました。前年同期に比べて拡大したのはコンシューマーバンキング部門で、融資残高の規律ある伸びと構成の変化に沿って、クレジットコストが増えたことに起因します。

第1四半期の営業利益は、グループ全体で、前年同期に比べて二桁台前半の成長を達成しました。グループは、高い流動性と潤沢な資本力を保持し、引き続きコンシューマーバンキング部門とホールセ

ールバンキング部門ともに、バランスシート収支は資産と負債の両サイドで規律ある伸びを示しました。同四半期のリスク加重資産(RWA)の増加率について、引き続き管理を徹底しています。

コンシューマーバンキング部門

コンシューマーバンキング部門の収益は、前年同期比で一桁と良好な成長を達成しました。

収益源は多岐にわたり、預金量の順調な伸びと利鞘の改善を反映して、預金収益が二桁の伸張を達成しました。クレジットカード事業と個人向け融資事業も、前年同期比で二桁の伸びを示して好調に推移し、特に香港・シンガポール・マレーシア・台湾・韓国では、無担保融資事業が選択的に成長しました。

ウェルスマネジメント事業の収益は、好調だった前年同期並みとなり、前年度下半期のランレートを上回りました。不動産融資事業の収益は、前年度末のポジションとほぼ同水準の資産と、利鞘の圧迫の継続を背景に前年同期に比べて減少しました。

中小企業(SME)向け融資事業も好調で、トレードおよびキャッシュマネジメント事業にけん引され前年同期比で二桁の収益成長を達成しました。

同四半期のコストは厳格に管理され、前年同期比で一桁の伸張率にとどまりました。

バランスシート収支は、外貨換算の差益を一因に、資産サイドと負債サイドともに前年度末から成長しました。同四半期の負債サイドの利鞘は前年度末の水準から拡大した一方、資産サイドの利鞘は前年度下半期とほぼ同水準となりました。

同部門におけるアセットクオリティ(資産の質)は、リスク管理への慎重なアプローチと先行指標の安定を反映し、好調さを維持しました。クレジットコストは、保有資産の成長継続と意図的な商品構成の変化を反映して一桁台半ばの増加率となり、予想通りに前年度下半期のランレートを上回りました。

ホールセールバンキング部門

ホールセールバンキング部門は、顧客からの収益が前年同期から一桁台後半の伸びを示し、2012年も力強いスタートを切ることができました。顧客からの収益は引き続き同部門の総収益の約8割を占めています。

キャッシュマネジメント・貿易金融およびそれに関連する為替業務で構成されるコマーシャルバンキング事業は、引き続きホールセールバンキング部門の軸であり、第1四半期に良好に推移しました。キャッシュマネジメント事業の利幅は概ね安定しており、貿易金融事業の利幅は前年度下半期から改善しました。キャッシュマネジメント事業と貿易金融事業の平均残高は良好な成長を維持したものの、市場業務

の成長減速、金利条件に対する当行のスタンス、および競争激化を要因に残高の伸張率は前年同期よりも穏やかなものとなりました。トランザクションバンキング事業の収益は、前年同期比で二桁と力強い伸びを示しました。

同四半期のコーポレートファイナンス事業の収益は、極めて好調だった前年同期に比べてわずかに減少しました。大型案件受注も堅調さを維持しています。

フィナンシャルマーケット事業における顧客からの収益は、前年同期比で一桁台後半の成長を達成しました。前年度下半期のランレートと比べて同事業は二桁の力強い伸び率を示し、為替・金利およびクレジットは二桁成長となりました。同四半期の取引量は前年同期を上回りました。

自己取引による収益は、前年同期比に比べ二桁台前半で増加しました。フィナンシャルマーケット事業の自己取引による収益は、大変好調だった前年同期に比べて減少しましたが、ALMとプリンシパルファイナンス事業の収益は二桁成長を達成しました。

ホールセールバンキング部門のコストは、前年度下半期のランレートをわずかに上回りました。

当行は引き続き少数の勘定に対する緊密なモニタリングを継続する一方、アセットクオリティは全般的に良好さを維持しています。同四半期のクレジットコストは、予想通りかなりの低水準にとどまりました。

グループ関連

当行グループは総じて、バランスシート収支の成長基調の維持と、多岐に渡る収益源に下支えされた前年度の好業績を足がかりに、今年度に向けて力強いスタートを切ることができました。グループは潤沢な資本と高い流動性を保持しています。次期業績予測については、6月の発表を予定しております。

詳細につきましては、以下の担当者へご連絡ください。

James Hopkinson, Head of Investor Relations +44 (0)20 7885 7151

Ashia Razzaq, Head of Investor Relations, Asia +852 2820 3958

Jon Tracey, Head of Media Relations +44 (0)20 7885 7613

日本語でのお問い合わせは下記にて承ります。

スタンダードチャータード銀行

コーポレート・アフェアーズ部

Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9311

Ca.Japan@sc.com

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性、実現性を保証するものではありません。また、本資料には、予測、目標、見通し、傾向、計画、目標、評価、意見、可能性他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績、計画、目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼できると思われる過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご了解ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。